

2025年 賀詞交歓会

開会挨拶

会長 上原 正弘

皆様、あけましておめでとうございます。本日は全国各地より大勢の方々にご参加いただきまして誠にありがとうございます。森光医政局長をはじめとした厚生労働省の皆様、伊吹製造産業局長をはじめとした経済産業省の皆様、特別民間法人高圧ガス保安協会の皆様、日本医療ガス学会の皆様、一般財団法人医療関連サービス振興会の皆様、その他医療団体の方々にもお越しいただいております。報道各社の皆様にもおいでいただき、誠にありがとうございます。

新しい年の幕開けでございます。今年は巳年で7月には参議院選挙です。

私はこの交歓会の場で挨拶させていただくのが3年目で、一昨年は「1をとる」、昨年は「2をとる」をテーマにお話をさせていただきました。今年はどうやって「3をとる」につなげようと思っていたところ、巳年の「み」と参議院の「さん」でうまく3をとれる年になっておりました。また英語で太陽を意味するSUN（サン）にもつながります。今年4月から大阪万博もありまして、年明けのニュースでは各企業が賃上げに積極的だという話ですので、経済がうまく回って国内が賑やかで太陽のように輝かしい年であることを願っております。一方国外に目を転じますと、アメリカの大統領選挙、韓国では大統領への拘束令状、シリアのアサド政権崩壊、ヨーロッパ各国では極右勢力の躍進等、顕在的、潜在的な政治の混乱が予想されております。ロシアによるウクライナへの侵略戦争も、この2月でもう3年になってしまいます。一刻も早くこの戦争の最後をみとる（3とる）ことを強く願っております。ご承知のように北朝鮮から前線に行ってみたり（3たり）中東ガザの紛争が収まる様子もなく物騒な様子が続いております。こちらは3をとらない、第三次世界大戦などということにならないよう、各国は理性を持って行動しなければならないと思います。

このような中でも私たちは、「モノづくりを支え 命を守る、インフラがある。」のキャッチフレーズのもと、我が国の産業と国民の命を守るために、必要とされるガスを必要とされる場所に必要とされる時に、安全に安定的に供給し続ける使命を負っています。JIMGAでは、会員各社がこの使命を全うするために、事故の無い安全な高圧ガスの世界の希求、「もの申す団体」として発言力の強化、カーボンニュートラルな社会への挑戦、という三つの活動方針のもと、今年も精力的に活動してまいります。

昨年のJIMGAに活動を振り返り少しお話をさせていただきます。一つ目は、化学物質による労働災害防止のための新たな規制に係る化学物質管理者の専門講習です。これは来年4月からは高圧の酸素、窒素、アルゴン等のガスが本規制の対象となるため、当協会でも昨年10月から講習会を開始しました。巷でも多くの講習会が開催されておりますが、必ずしも私たち高圧ガスの事業者にとって分かりやすいものではありません。そこで当協会の講習会では、会員の皆様が具体的にどのような対応をしたらよいのかという解説に主眼をおき、また安全データシートの事例も紹介しています。規制対象の事業所を有する会員様におかれましては、是非受講をご検討いただきたいと思います。



二つ目としては、日本薬局方第十八改正における元素不純物リスクアセスメントへの対応を行いました。個社では多額の費用がかかり対応が難しい課題に対し、会員企業の方々のご協力を得ながらリスクアセスメントレポートを作成し、厚生労働省との折衝で会員の皆様はこのレポートに基づいてリスクアセスメントを完了することができるようになりました。是非ご活用いただきたいと思います。

三つ目は MGR に関わるものです。MGR が医薬品の卸売販売業の管理者の資格要件の一つとなるよう、2009 年より大阪府を皮切りに各都道府県と折衝を重ねてきました。コロナの影響で中断していましたが、去年は新たに広島県と福岡県の 2 県に認めていただき、現在 14 道府県まで拡大しています。今後も折衝を重ねて、当協会が作り上げ、当協会のみが認定を行えるこの制度を広く世に知らしめ、医療用ガスの安全な取扱いに寄与していきたいと思えます。

医療関係の他、国際整合化対応や規制改革関係についても取り組んでまいりました。規制改革は種々の案件がありますけれども、本日ご臨席を賜っております関係省庁、関係団体の皆様のご理解とご協力を得ながら実現してまいりたいと思えます。

また、鳥インフルエンザでも毎年苦勞させられております。今年も新年早々、岩手県、愛知県、茨城県、鹿児島県で発生しました。農林水産省のご見解は、鳥インフルエンザについては基本的に各地方行政単位での対応ということですが、各地方行政での対応はまちまちです。安全で安定した炭酸ガスの供給のため、容器の保管やその輸送手段などに関して、どのような方法が合理的なのか、引き続き関係行政の皆様と議論させていただきたいと思います。

さて、当協会の今年の大きな課題は会費の減収への対応です。会費基準の改定につきまして、去年の総会で賛をとる（3をとる）、残念ながら全会一致ではありませんでしたが、賛成をいただきまして、この4月からの正式運用となります。従前からお話しているとおり、新しい会費制度では、本年度 2024 年度の約 2 億 9000 万円の会費収入が 3000 万円減少する見込みです。ただ、去年の理事会で、激変緩和措置をご承認いただきましたので、この 3000 万円の減収を 3 年かけて漸減させていきます。しかし名前のとおり激変緩和するだけなので、2025 年度、本年の 4 月から 毎年 1000 万円ずつ会費収入が減少して 2027 年度には 3000 万円減少することになります。会費収入は約 1 割強減りますが、もちろん当協会の活動を縮小するのではなく、例えば魅力的な図書類の出版販売、講習会についても、実務的なものばかりでなく楽しめるような企画を加える等の知恵を絞り、会費以外の事業収入を増やしていくとともに、より効率的な運営で会員の皆様のご期待に添えるよう、役職員一同で頑張っております。引き続きご理解、ご支援を賜りますようよろしくお願いいたします。

今年はどうなる年になるのでしょうか。最後にまた少し数字遊びをさせていただきます。去年は令和 6 年の 6 の約数をとって、それをメンデレーエフの周期表に割り当てる…などということをやったら一部の方から難解過ぎるというお話をいただきましたので、今年はいちよつと簡単な話をさせていただきます。まず今年の西暦 2025 を素因数分解します。結構簡単な割り算なので、お手元のスマホで電卓機能がありましたら試していただければと思います。まず 2025 なので 5 で割りますと 405 になります。405 をまた 5 で割ると 81 です。81 は 9×9 ですので、 $3 \times 3 \times 3 \times 3$ です。つまり 2025 という数字は、3 の 4 乗かける 5 の 2 乗 ($3^4 \times 5^2$) というごくシンプルな素因数分解ができることがわかりました。そこで本日のテーマの「3をとる」をしますと、四つの 3 がなくなりまして、残るのは 5 が二つです。今年はいちよつと威勢の良い年になりますので、皆様のご健勝、ご活躍と各社様ならびに関係団体様の益々の繁栄を祈念申し上げまして、私の挨拶とさせていただきます。

来賓ご挨拶 厚生労働省 医政局 局長 森光 敬子 様

あけましておめでとうございます。今年も良い年になればと思っております。私は昨年7月医政局長を拝任いたしましたけれども、若い頃はまさに医療ガスを担当させていただいておりました。当時は協会の方と講習会の内容など色々議論をしていたと記憶しております。非常に感慨深いものがあります。

それでは一般社団法人日本産業・医療ガス協会の賀詞交歓会の開催にあたりまして一言ご挨拶を申し上げます。貴協会におかれましては、日頃より医療ガスの安全管理などの取り組みを通じて、我が国の保健医療水準の向上に寄与してこられたことに対し心から敬意を表します。

慢性疾患や医療と介護の複合ニーズを有する高齢者の増加など、我が国の医療を取り巻く環境が大きく変化する中で、在宅患者も多くの施設で増加が見込まれており、在宅で安心して生活できる環境整備を進めていく必要があります。こうした状況の中で国民の医療に対する信頼に添えていくためには、医療ガスの安定供給や在宅酸素供給装置の保守点検業務が一層重要になってまいります。貴協会におかれましては、これまで産業・医療ガスに関する各種講習会の開催や在宅医療機器の品質の改善および利用の普及、また在宅酸素供給装置の保守点検事業者向けの緊急災害時における手引書の策定など医療ガス等の安定供給や安全管理の徹底に努めてこられました。特に昨年の年頭にありました能登半島地震をはじめとする地震や台風等の災害への対応につきまして、在宅酸素療法患者の安否確認の対応、医療ガスの安定供給、医療ガス設備の保守点検業務などを通じて、医療提供体制の確保にご尽力いただきました。また昨年は、在宅酸素療法患者の安否確認に対応するため JIMGA 版安否確認システムを開発されるなど、今後の災害時に備えた体制構築への取り組みも進めていただいております。

こうした取り組みは、安全・安心な医療サービスを提供する上で不可欠なものであり、次の感染症危機や災害時に備えた体制構築に向けても大変重要です。貴協会の会員ならびに関係者の皆様方の多大なるご尽力に対し、この場をお借りして改めて厚く御礼申し上げます。なお、厚生労働省において、将来にわたって持続可能な医療提供体制を確保するため、新たな地域医療構想、医師偏在対策を始めとした医療提供体制の総合的な改革を進めていく予定です。引き続きお力添え賜りますようお願い申し上げます。

最後に貴協会の益々のご発展と、本日ご参集の皆様にとって本年が実り多き一年となることを心から祈念いたしまして新年の挨拶とさせていただきます。

最後に貴協会の益々のご発展と、本日ご参集の皆様にとって本年が実り多き一年となることを心から祈念いたしまして新年の挨拶とさせていただきます。



来賓ご挨拶 経済産業省 製造産業局 局長 伊吹 英明 様

皆様、あけましておめでとうございます。おそらく去年よりは少し落ち着いたお正月を迎えられている方が多いのではと思います。

昨年は年始に能登半島地震がありまして、医政局長からもお話があったとおり、命を守るという面、また色々な企業の復旧のなかで産業ガスが必要なこともあり、産業の復旧というところにも皆様のお力が添えられたということだと思います。改めてお礼を申し上げます。まだ苦しんでる方々がたくさんいらっしゃいますので、政府として経産省としても復旧、復興への取り組みを着実に進めてまいります。

会長に触発されたという訳でもないのですが、去年がどういう一年だったかということについて経済の方から数字をいくつか拾ってみたいと思います。経産省では政策をやるときにまず二つの数字を見ます。一つは設備投資、もう一つは賃上げです。全体的には今まではデフレで、皆様選択と集中でどちらかということ、現状維持でシュリンク的な対応をせざるを得ない状態でした。去年くらいからは段々とインフレも入ってきて、売り上げも伸ばしていかなければいけない、成長もしっかり目指していかなければいけないと企業の経営全体が変わってきています。その中で、設備投資はその起爆剤になるのですが、去年は実は 100 兆円を超えておりまして、史上最高の金額ということになっています。それから賃上げです。賃上げがないと生活者の方々がお金を使ってくれませんので、非常に大事な経済が回っていくときのメルクマールなのですが、去年は 5%を超え、中小企業でも 4%台半ばということですので、これも 30 数年ぶりの非常に良い数字だったということです。他には名目 GDP の 600 兆円もあります。それから皆様が一番肌で感じるのは株価だと思いますが、株価も 4 万 2000 円をつけていますので、マクロで見ると去年は結構良い数字が出ている年でございます。

では、今年はどういう一年にしたいのかということ、やはり成長型の経済に移行するということが確認できる年にしていきたいと思います。会長から良い前振りがありましたので、皆様是非今年も賃上げ、設備投資、それから後程もお話をしますけれども、中小企業を含めて皆が賃上げできるようにということで、原材料等が上がった時の価格の転嫁にサプライチェーン全体でしっかり取り組んでいく必要があると思っています。是非、積極的な取り組みをお願いいたします。

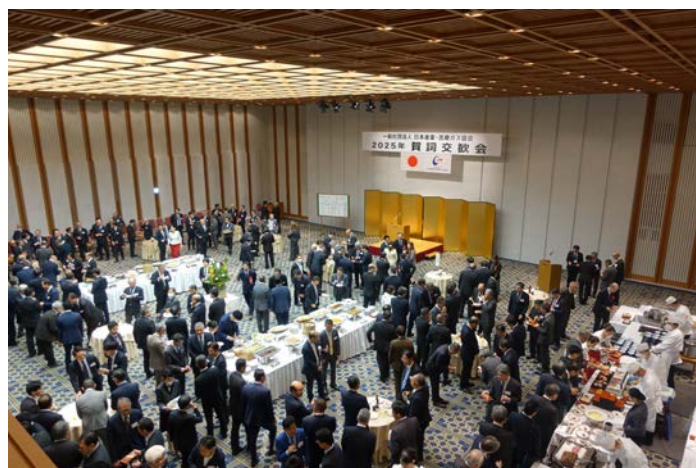
投資をしていく時のテーマは何かということ、我々がいつも言ってるのはカーボンニュートラルの GX とデジタルの DX、それから経済安全保障です。先ほど会長からも各国、各地域で起こっているさまざまな紛争のお話がありましたように、自立的な経済を作っていくためには経済安全保障は非常に大事なテーマです。まず DX、デジタルの方から見ていきますと、皆様の業界に関係の深い半導体は、経済安全保障の中では特定重要物資という位置付けをされています。これから国会で議論されるのですが、複数年で政府としてもしっかりと応援をしていけるような仕組みを作っていきますので、皆様が扱ってるヘリウム、希ガス等の製造、リサイクル、備蓄などもしっかり応援していかなければいけないと思っております。それから 二つ目が皆様の業界にも一番大きく関係するカーボンニュートラル、GX の関係です。これは例えばクリーンエネルギーである水素の製造や供給。それから CCUS をやろうと思うと CO₂ の回収や貯蔵などが必要ですので、これは皆様の技術力、



実行力なくして日本全体のカーボンニュートラルは進められないということです。年末にエネルギー基本計画やGX 2040 ビジョン等いくつか計画が出されています。サプライチェーン全体で製品供給と組み合わせてビジネスチャンスにつなげるような運用をしていきたいと思っています。今までもカーボンニュートラル関係では特別な国債を発行して先に皆様に投資をしていただきましょうということで、官民合わせて150兆円、政府で20兆円のGX 経済移行債を発行して、設備投資を応援したり税制で応援したりということをやっていますので、グリーン市場も作っていかねばいけませんし、皆様の意見を聞きながらカーボンニュートラルを進めていければと思っています。皆様のお知恵を是非拝借して進めていければと考えています。

政府からお願いが二つあります。一つはこちらも先ほど上原会長から素晴らしい前振りをいただいたのですが、今年は大阪・関西万博があと90日も経たない4月13日から始まります。テーマは「いのち輝く未来社会のデザイン」ということですが、最初に大阪府・大阪市が検討した時は健康医療というテーマでした。「いのち」が一つのテーマになっており、7人のプロデューサーそれぞれが自分の思う命をどういう風に表現するかというパビリオンもあります。自分達の幸せな未来とはどのようなようになるのか、という展示がたくさんありますので、ご家族、ご友人、従業員の方々と是非チケットを買って、大阪にお出かけいただきたいということでございます。もう一つのお願いは福島復興についてです。経済産業省は福島の復興をしっかりやるという使命があります。実は皆様にご協力いただけることがたくさんあります。去年、処理水については方向性が出たのですが、まだ日本の魚を輸入するのは嫌だという国もあります。三陸常磐ものをはじめとする日本の水産物を是非国内でたくさん食べて、漁業の方々に応援するのを手伝っていただければと思います。

産業・医療ガスは、経済にとって、一つは命を守る医療ガスとしての役割があります。もう一つは、鉄鋼や半導体などの製造プロセスで必ず使われる産業ガスとしての役割があります。命と産業と両方を守っているのが皆様でございます。今年一年は、日本経済や日本社会が良くなっていく年になるだろうと思います。その中で皆様の活躍の場もたくさん広がっていくと思いますので、是非皆様が元気よく業界を盛り上げて、皆様のビジネスが益々栄えるように、また皆様のガスのユーザーの方々が幸せで健やかな一年を送れますよう祈念しまして挨拶とさせていただきます。



乾杯挨拶 副会長 田中 豪

皆様あけましておめでとうございます。僭越ではございますが、乾杯の音頭をとらせていただきます。

JIMGA は昨年 4 月に産業ガス部門と医療ガス部門を統合してスタートしましたが、会長からもお話がありましたとおり、会費の問題等まだまだ解決すべき課題が多くございます。この課題を会員各社の皆様方と一緒に解決することで、JIMGA の理念であります経済社会への貢献、産業ガス・医療ガス業界の発展の実現に向けて取り組んでいきたいと思っておりますので、今年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

それでは乾杯させていただきます。JIMGA の会員各社の益々のご発展と、本日ご臨席いただいております皆様方のご健勝とご多幸を祈念いたしまして、乾杯したいと思います。 乾杯。



中締め挨拶 専務理事 澤木 実

本日はご多用の中、JIMGA 賀詞交歓会にご参加いただきまして誠にありがとうございます。

会長のお話にもありましたとおり、JIMGA は組織の一本化が整い、その後は会費の一本化を進めております。再来年は新しい会費でのスタートとなります。新生 JIMGA として、会員の皆様のご要望に応えられるようやっていく所存でございます。財政的には非常に厳しいのですが、効率を上げて対応してまいりたいと思っております。

今後とも皆様のご支援とご鞭撻をお願いいたします。それでは本日ご出席の皆様、会社様、団体様、省庁様のご繁栄を祈念しまして、三本締めで中締めしたいと思います。ご唱和よろしくお願いいたします。(三本締め)

